2020年 東京五輪メダル獲得へ
中大・白石大 日韓レスリング国際交流 公開シンポジウム

中大保健体育研究所

中大レスリング道場で合同練習する中大（左）、白石大選手

2013年にスポーツ交流協定を締結し、ともにレスリング部の競技力向上を図る中央大学と韓国の白石大（ペク ソク）による公開シンポジウムが７月４日、多摩キャンパスで行われた。

公開シンポジウムは中大保健体育研究所・2020オリンピック・パラリンピック研究班が研究所設立40周年を記念して企画。『2020を目指して－日韓レスリングの国際交流』と題した。

福原紀彦学長が来日中の白石大関係者に歓迎の辞を述べ、深い敬意を表した。

白石大とは2013年８月に中大初のスポーツ（体育連盟）国際交流協定を締結。以来、毎年７月と２月に日韓を往来して、１週間ほど合同練習を重ねてきた。

韓国のレスリングは五輪強化競技の一つに位置付けられている。訪韓する中大にとっては白石大のほか韓国ナショナルトレーニングセンター、韓国国立体育大での練習などもあり、強化につながる有意義な海外遠征となっている。

この日、登壇したのは白石大監督の李オル氏（31）と昨年９月に中大レスリング部コーチに就任した李正根氏（58）。学内でただ一人の外国人コーチだ。

中大の中長期事業計画『ＣＨＵＯ ＶＩＳＩＯＮ 2025』のスポーツ振興事業の一環として招かれた。

テーマは『2020韓国代表選手養成とナショナルコーチを目指して』（李監督）、『2020を目指す中大レスリング部の選手養成、現状と課題』（李コーチ）

白石大　李オル監督

李監督はグレコローマンの名手で、韓国の国体７連覇。指導者に転じてからは次世代の代表選手育成ステップとなる2017年世界ジュニア代表監督を務めた。

選手指導には定評があり、選手に独自の工夫を求める「創意的なレスリング」を推進する。監督と選手の関係をこう話した。「選手の多様性と自主性を尊重し、一緒に喜び、一緒に悲しむ」

目指す方向が同じとして、韓国ナショナルチームの合宿練習風景を会場内ビジョンで再生した。韓国の大手テレビ局が放送したものだ。

極限状態でいかに実力を発揮し、相手に勝つか。キーワードは『限界を超える』。合宿中、１日４回の練習で、目標達成へ汗を流すという。

自身の将来設計も明かした。2020年東京五輪で指導者、その後は審判員、強化担当などを志望。レスリングへの熱い気持ちが伝わってくる。ここまでの講演は日本語だった

一方、李コーチの講演は中大・山本美仁監督（38）が同時通訳した。

山本氏は韓国語を日本語のようによどみなく話す。中大卒業後、オリンピックを目指し韓国に渡り、韓国国立体育大修士課程修了、ソウル大教育科博士課程在籍。日韓レスリング交流の懸け橋といえる存在だ。のちに白石大監督となる李氏とは留学直後に学んだ韓国国立体育大で出会った。

中大に韓国人コーチ

中大レスリング部　李正根コーチ

李コーチはフリースタイルの第一人者で、1984年ロサンゼルス五輪銅メダル、86年ソウル・アジア大会金メダル。自国開催のアジア大会優勝までには並々ならぬ鍛錬があったと思われる。

「レスリングは精神力。精神が肉体を支配しています」「練習中から強い意識を示そう」と力説した。

もっと知りたい　へぇ～

□ 韓国・白石大

1994年創立のキリスト教系私学。学部はキリスト教、法制、スポーツ科学など10を超える。2017年、学内に収容1700人もの大規模学生寮・ゲストハウスが完成。同年２月の交流から中大部員も利用させてもらっている。

□ フリースタイルとグレコローマン

五輪実施種目は男子フリースタイル、同グレコローマン、女子の３スタイル。男子フリースタイルは女子と同じルールで、全身のどこを攻め、どこを使って守ってもいい。男子グレコローマンは上半身の攻防に限られる。

1992年バルセロナ五輪韓国代表コーチ、98年バンコク・アジア大会代表コーチ、99年世界選手権（アテネ）総監督。４人の金メダリストらを育てた名伯楽は、いま、中大寮の近くで学生選手と生活を共にする。

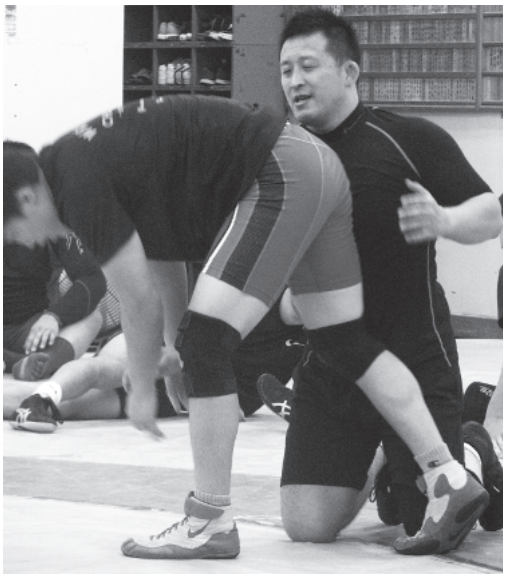
来日以降、指導したこの日までの10カ月を「レスリングに必要な専門体力が徐々についてきました。練習量に比べて食が細いのが気掛かり。もっと食べてほしい。けがを防ぐのは食事です」と強調し、こう宣言した。「いい結果が出るよう、私も全力を尽くします」

群雄割拠の国際舞台で日韓代表選手の巻き返しは目覚ましく、2014年韓国・仁川アジア大会の金メダルは日本選手１、韓国選手３。2017年世界選手権（パリ）金メダルは日本２、韓国１。

彼らに追い付け、追い越せと白石大と中大の若い力が意気込む。

中大は昨年11月の全日本学生選手権で尾形颯（おがた はやと）選手（商３）が３位に入り、曽根川侑主将（当時）は全日本選手権王者を破る大健闘。尾形選手は今年６月の全日本選抜選手権３位。中大勢がトップレベルの大会で表彰台に上がったのは、2010年準優勝の天野雅之選手（ＯＢ・中大職員）以来８年ぶりだった。

36年ぶりに学生チャンピオン誕生



中大レスリング部　山本美仁監督（右）

尾形選手は、さらに今年８月29日、歴史の扉をこじ開けた。全日本学生選手権フリースタイル74㌔級で優勝、学生チャンピオンとなった。中大選手としては1982年の岸本茂範選手以来36年ぶりの栄冠だ。

日韓交流を通じてレベルアップしていく両校選手。活躍の舞台は2020年東京五輪である。

2020年東京五輪
レスリング競技日程
（会場＝千葉・幕張メッセ）

競　技
8月2日（日）～8日（土）

開会式
7月24日（金）

閉会式
8月9日（日）

両校主将があいさつ

シンポジウム会場には両校選手が詰めかけて熱心に聴講した。講演後は２人の主将がマイクを通して謝意を述べた。共に自身の入学時から４年間、日韓交流を経験してきた。

「来日するたび勉強になります」（白石大、チェ・ハリム主将）、「スポーツのほか双方の文化交流もしています」（中大・藤堂修人主将）

質疑応答では女子学生が「分からないことばかりでした」と進化するレスリングの強化に驚き、男性聴講者からはビデオで紹介された「スペシャル技」に関する質問があった。

校歌の思い出、司会の森教授

司会進行はスポーツ交流運営の森正明教授（文学部）。自身のレスリングの思い出として披露したのが、学生時代に観戦した全日本大学選手権（インカレ）決勝だった。

中大は鶴田友美選手の活躍で優勝し、学生日本一の座に就いた。「みんなで校歌を歌いました。感激しましたね。このような思いで、校歌を歌いたい」と森教授。授業のほか、校歌の歌唱指導をしているという。

1972年ミュンヘン五輪代表の鶴田選手は、のちにプロ入りし、「ジャンボ鶴田」のリングネームで知られた人気選手。日本人初となる世界ヘビー級王座に輝いた。